



川越市立大東西中学校 学校だより

き ら め き

令和7年7月22日発行
第5号
川越市立大東西中学校
校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心を持ち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

自己有用感を高める絶好のチャンス

校長 小川 潤也

本日、無事に1学期終業式を迎えることができました。これも保護者、地域の皆様のおかげであると感謝しております。4月から振り返ってみて、総じて子供たちは、落ち着いた学校生活を送ることができました。挨拶も積極的に自分からできる生徒が多いです。朝読書もとても静かに取り組むことができています。無言で行う清掃なども主体的に行っています。これは、「とどけ挨拶」、「ひらけ朝読書」、「みがけ清掃」という本校の伝統につながる、誇るべきところです。

また、授業では積極的に川越市授業スタンダードのもと、基礎・基本を大切に、ICT等を活用して学習に取り組んでいました。友達と助け合いながら学校生活を送った子も多くいます。保護者の方の力強いサポートがあった子もいます。子供たちは主体的に、自分の力で努力していました。全校生徒一人一人が、成長をすることのできた1学期だったと思います。

さて、私は、常日頃から、子供たちに自信をつけさせたい、自己有用感を高めさせたいという気持ちでおります。

自己有用感とよく似た言葉に、「自己肯定感」があります。「自己肯定感」とは読んで字のごとく、自分の価値や存在意義を肯定できる感情を言います。自己肯定感の高い人は、ありのままの自分を認めることができ、他者も認めることができます。自分に自信がもてるから困難も乗り越えられる。是非、子供たちに育ませたい感情です。



ところが、自己肯定感が高ければ自己有用感も高いかといえば、必ずしもそうとは限りません。

「自分は能力があるのに、周りが認めてくれない。うまくいかないのは、周りの人たちが悪いからだ。」と、すぐ他人に責任転嫁する人がいたら、これは、自己肯定感だけが低い例です。また、走るのが速い子が代表選手に選ばれたとします。「自分は走るのが速いから、クラスの代表として選手に選ばれた。だから、みんなの期待に応えられるように頑張りたい。」これは、周りから認められ、期待されているという自己有用感を伴った自己肯定感です。単に「走るのが速い」という自信ではなく、他者のために自分の力を発揮したいという思いに高まっている。このように、自己肯定感を高めるには、まず、自己有用感を高めることが大切です。

先日、「自己有用感と教育的環境・関わり方」というある調査を読みました。自己有用感とは、誰かの役に立っている、貢献している等、自分が有用であると思える感情ですが、誰かに必要とされた、人に喜んでもらえたなど、他人の存在なしでは生まれない感情といえます。その資料には、自己有用感が高い子供ほど、周りの大人が褒めてくれる、話しかけてくれる、話を聞いてくれる、という経験を多くしているという結果が記されていました。当たり前のような結果ではありますが、私自身振り返るきっかけとなりました。

子供たちに3つのタイ(① 認められタイ ② ほめられタイ ③ 役に立ちタイ)を育むことが自己有用感を高めることに繋がってくると言われています。長い夏休みが始まります。人の役に立つ、相手に喜んでもらう、子供たちにはそんな体験を多く積んでもらいたいです。家庭での家事分担、地域行事への参加など、家庭、地域に子供たちの生活の中心が移る夏休みこそ、絶好のチャンス到来だと考えます。